

「認知症の人の地域生活を支援する
ケアプログラム推進事業」に参画して
～ケアマネジャーだからできること～

医療法人社団福寿会
在宅総合支援センターふくろう管理者
BPSDケアプログラム認定インストラクター
弓狩幸生

1

本日の目的

「このプログラムが目指すこと」
「これまでの取り組みと成果」
これらを通じて私たちが出会う認知症の人に
“ケアマネジャーだからできること”を
実践できるようになる！

2

本日の項目

- 1、BPSDケアプログラムについて
- 2、プログラムの効果
- 3、在宅での認知症ケアにおける
“ケアマネジャーだからできること”

1、BPSDケアプログラムについて

認知症の人の地域生活を支援するケアプログラム推進事業について

認知症の人の地域生活を支援するケアプログラム推進事業について

認知症の人の地域生活を支援するケアプログラム推進事業の趣旨

- 認知症の人の日常生活が円滑となるための認知症の初期対応(認知症)の早期発見、予防やハイパーケアの提供による認知症の進行の遅延を目的とする。
- 認知症の人の生活の質を向上させるため、認知症の初期対応(認知症)の早期発見、予防やハイパーケアの提供による認知症の進行の遅延を目的とする。

事業の目的

認知症の人の日常生活が円滑となるための認知症の初期対応(認知症)の早期発見、予防やハイパーケアの提供による認知症の進行の遅延を目的とする。

事業の趣旨

認知症の人の日常生活が円滑となるための認知症の初期対応(認知症)の早期発見、予防やハイパーケアの提供による認知症の進行の遅延を目的とする。

事業の目的

認知症の人の日常生活が円滑となるための認知症の初期対応(認知症)の早期発見、予防やハイパーケアの提供による認知症の進行の遅延を目的とする。

事業の趣旨

認知症の人の日常生活が円滑となるための認知症の初期対応(認知症)の早期発見、予防やハイパーケアの提供による認知症の進行の遅延を目的とする。

事業スケジュール等

平成21年度
平成22年度
平成23年度
平成24年度

事業の趣旨

認知症の人の日常生活が円滑となるための認知症の初期対応(認知症)の早期発見、予防やハイパーケアの提供による認知症の進行の遅延を目的とする。

効果

認知症の人の日常生活が円滑となるための認知症の初期対応(認知症)の早期発見、予防やハイパーケアの提供による認知症の進行の遅延を目的とする。

効果

認知症の人の日常生活が円滑となるための認知症の初期対応(認知症)の早期発見、予防やハイパーケアの提供による認知症の進行の遅延を目的とする。

1、BPSDケアプログラムについて

行動心理症状の意味を見直す

- ・認知症の人の“満たされていないニーズ”の表明
- ・とても大切な“メッセージ(反応)”であり、“コミュニケーション”である。
- ・“その人の満たされていないニーズ”を読み解く大事なカギ。それに基づいてケアを改良する！

5

1、BPSDケアプログラムについて

行動心理症状に着目した
新しいケア戦略をつくる

6

1、BPSDケアプログラムについて

本ケアプログラムを通じて期待される変化

☆視点の変化

「行動心理症状を本人のニーズを読み取る大事なカギとみることができる」

☆自信の獲得

「行動心理症状へ周囲の不安が減り、積極的にかかわる自信が持てる」

☆ケアの変化

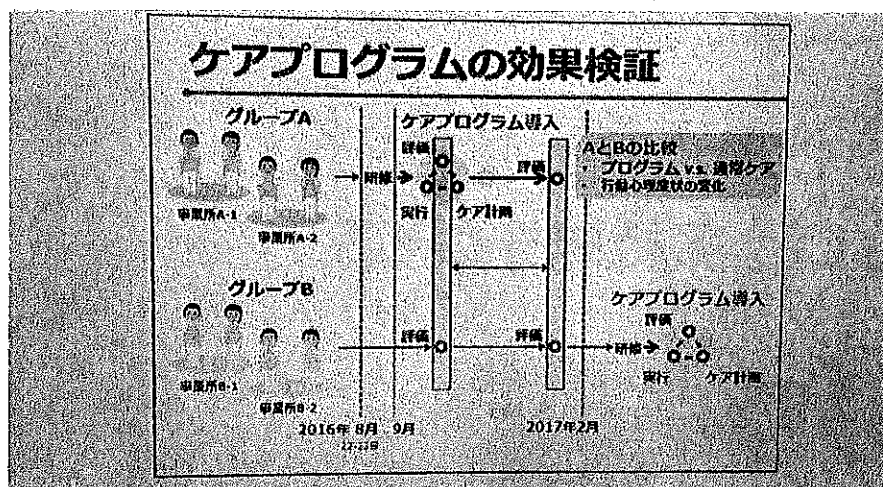
「ニーズにあったケアの提供が促進され、行動心理症状が減る」

☆アウトカムの変化

「本人の苦痛が軽減されるとともに、介護者の負担も減る」

7

2、プログラムの成果(中間報告)



8

2、プログラムの成果(中間報告)

①従事者の意識の変化

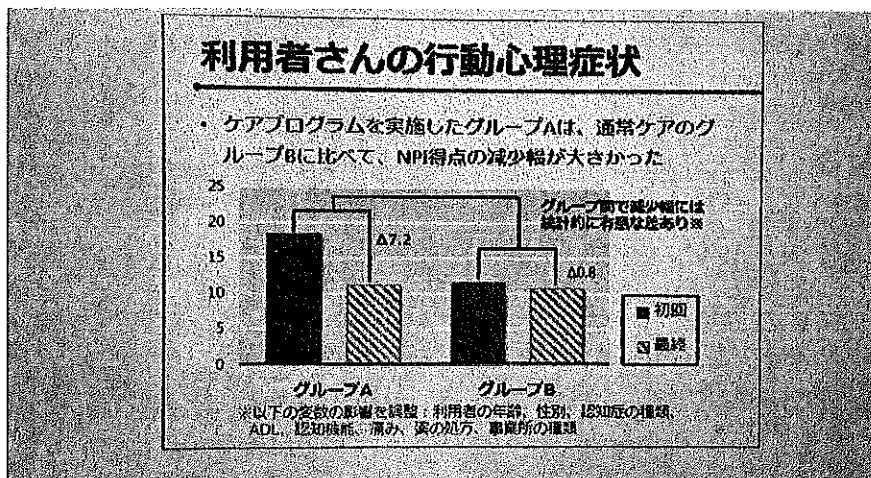
グループAの従事者はケアプログラムの導入前と比べて、導入2か月後の認知症への理解が深まっていた

②利用者の行動心理症状の変化(改善)

ケアプログラムを実施したグループAは、通常ケアのグループBに比べて、NPI得点の減少幅が大きかった

9

2、プログラムの成果(中間報告)



10

2、プログラムの成果(中間報告)

③参加者の感想

- ・より深くご本人を知ることができた。
- ・普段からご本人の様子をよく観察するようになった。
- ・ご本人にとってどのようなケアが良いかをこれまで以上に考えるようになった。
- ・それまでお互いに知らなかった個々の対応や工夫、利用者さんの新しい側面を知る機会にもなった。
- ・ケアにおける視点の共有と統一した対応ができた。

11

3、在宅での認知症ケアにおける “ケアマネジャーだからできること”

- ・利用者を知る(認知症になる前から現在に至るまでの歴史を含めてアセスメントする)
- ・チームを形成する(医療・介護・インフォーマルな支援)
- ・後は“ケアの領域”をつくりだす(他の疾患、服薬の影響、痛みの観察、これらを医療職と連携し常に観察、適切に対応する)
- ・ケアの統一(ケアを工夫し統一した対応を行う)
- ・効果の検証(モニタリング)
- ・結果のフィードバック(チームでの効果の共有、家族へのフィードバック)

12

3、在宅での認知症ケアにおける
“ケアマネジャーだからできること”

「勇気」と「希望」と「責任」をもって
認知症の“人”に向き合う！

13

認知症になっても住みやすいまち“足立区”を目指して

私たちケアマネジャーにできることを
全力で行いましょう！

本日はご清聴ありがとうございました。

14

